

# 令和6年度 学校経営計画・自己評価書

足立区立東栗原小学校

校長 伊地知 広竹

## 1 学校教育目標

学ぶよろこび ・ きたえるよろこび ・ ふれ合うよろこび をもつ子ども

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの自立を促し、手助けをする学校</li> <li>・子どもが安心して過ごすことのできる安全な学校</li> <li>・すべての子どもに基礎的・基本的な学習事項を定着させる学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な学力・体力を身に付け、工夫しながら楽しむ子ども</li> <li>・目標をもち、最後までやり遂げる子ども</li> <li>・互いの違いや人権を尊重し、協働して、社会に貢献する子ども</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと共に過ごし、子ども理解に努める教師</li> <li>・子ども一人一人の自己実現を支援する教師</li> <li>・保護者・地域に信頼される教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[学校の現状]

- ・足立スタンダードに基づいた授業を展開し、ICT を利活用した協働的な学びの展開に努め、キュビナを活用した個別最適な学びを図る。
- ・学校行事や校外学習などに向けた事前・事後指導を展開し、児童の自己肯定感を高める指導の充実を図る。
- ・ゆとりある生活時程の中で、学習時間の確保と授業の質の向上に務め、主体的に行動する児童の育成を図る。

[前年度の成果と課題]

- 低学年から算数少人数指導を取り組み、分かる授業を実践し確かな学力を身に付けることができた。
- チャイムに頼らず、時計を見て主体的に行動するようになった。
- カリキュラムマネジメントを進め、児童がゆとりのある学びと学校の働き方の両立。
- 家庭学習を主体的に取り組めるよう、児童が課題を見付け学習計画を立てて探究する時間の設定。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	○	○
2	豊かな人間性の育成（豊かな心）	◎	◎	◎	○	○
3	基礎体力の向上と健康な体づくり（健やかな体）	○	○	○	○	○
4						

## 5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的な内容の定着、課題解決を分かりやすく考えさせる授業の工夫・改善を行う。		年度末定着度調査（2月）の2科目平均通過率75%、平均正答率75%		通過率：国67.2%、算57.7% 正答率：国64.1%、算65.1%		2科目平均通過率は62.4%で未達成 2科目平均正答率は64.6%で未達成 AIドリル（キュビナ）を活用していく		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 改善	授業研究	全学年 国語算数 総合特活 道徳	通年	全教員 ・足立スタンダードの徹底 ・特別の教科道徳や学級活動、調べる学習指導の共有	実施回数	・年4回 ・年度末に達成状況を評価	・5月道徳、9月学活、11月生活の授業研究を実施 ・1月国語を実施予定	・マイプラン学習、調べる学習の指導について共有できた	◎
2 継続	話す力の育成	全学年 全教科	通年	・他者との関わりから考えを深める授業づくり ・他者に伝える機会の充実	児童や教員へのアンケート	肯定的な回答が80%以上	・児童「分かりやすく話す」78% ・教員「伝える」93%	・友達と考えを交流する機会を、多く設定していく	○
3 継続	書く力の育成	各教科 その他	通年	全教員 ・各教科や特別活動等において学年に応じた文字数で書く活動の日常化	児童や教員へのアンケート	肯定的な回答が80%以上	・児童「分かりやすく書く」73% ・教員「書く力」75%	・聞いて要旨をまとめる、主張を整理して書く指導の充実	○
4 新規	個別最適な学び	国語算数	通年	・キュビナシートを活用し課題解消のための個別支援	児童や教員へのアンケート	肯定的な回答が70%以上	・4・5月に活用月に活用、キュビナ活用児童67%、教員63%	・300問以上取り組む児童60～70%、毎月の調査を継続	○
5 継続	教員の授業力向上	各教科 その他	通年	全教員 ・教科指導専門員と一緒に校長の授業観察 ・小中連携の目指す児童・生徒像を目指した授業づくり	・授業観察の実施回数  ・教員へのアンケート	・年間一人3回以上  ・年度末に達成状況を評価	・全員1回以上実施、若手は3回以上実施 ・教員「授業改善に活かす」90%	・今後も計画的に実施する ・他者との関わりから、考えを深める場面を設定する	○

重点的な取組事項－２		豊かな人間性の育成（豊かな心）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体験の中から、人やこと、ものとの関わり方を学び、豊かな人間性を育成する。		目標実現に向けた取組の実施結果が、3項目以上が達成基準以上	3項目が基準以上を達成	今年度の取組を継続する	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ・差別に関する教員研修と防止授業を4回以上</li> <li>児童会主体のいじめ・差別撲滅キャンペーンを年2回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業地区公開講座で、いじめ防止授業を全学級で公開</li> <li>健全育成の年間計画に沿った取組の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ・差別に関する教員研修と防止授業を4回以上実施</li> <li>児童会主体で、6月にいじめ防止集会を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業公開、意見交換会を実施</li> <li>健全育成廊下掲示を年2回展開する</li> </ul>	○
学級活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級活動(1)の話し合い活動を年間15回以上実施</li> <li>全員が学級会の運営に1回以上関わる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級活動(1)の実施</li> <li>土曜授業で学級活動の話し合い活動を全学級で公開</li> <li>全員が司会や記録等を経験する</li> </ul>	12月現在で <ul style="list-style-type: none"> <li>教員アンケート「学級会で司会グループの経験を積ませる」100%、</li> <li>児童アンケート「学級会で司会をした」70%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い活動を計画通りに実施できた</li> <li>話し合い10のやくそくを全学級で行い、共通実践を展開する</li> </ul>	◎
自己肯定感を高める支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期や学校行事等のめあてや振り返り指導を年4回以上</li> <li>学校評価（児童）「自分のことを大切に思う」の肯定的回答が90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夢デザインシートの活用</li> <li>学級活動の時間に、係活動のめあてづくりや振り返り指導を実施する</li> </ul>	12月現在で <ul style="list-style-type: none"> <li>教員アンケート「夢デザインシートの活用」100%</li> <li>児童アンケート「自分のことを大切に思う」88%</li> <li>保護者アンケート「お子さんは、自分のことを大切に思っている」94%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事の振り返りシートは学年で工夫する</li> <li>学校行事や学級活動は、自己実現、社会参画意識を育てるために児童主体の取組を展開する</li> </ul>	◎
不登校やその傾向がある児童への支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会の実施回数</li> <li>(3年生以上)QU検査を2回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会で、情報共有、関係諸機関との連携など、素早く組織的に対応する</li> <li>QU検査の結果を学級経営に活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校児童の出現率は、前年より減少</li> <li>当該児童の願いに応じた対応を実施</li> <li>QU検査の結果を学級経営に活用、また、個人面談で保護者に説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も校内委員会で情報共有、SSWとも連携し組織的な対応に努める</li> <li>QU検査の活用について、校内研修で研鑽を積む</li> </ul>	○

重点的な取組事項－3		基礎体力の向上と健康な体づくり（健やかな体）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
進んで体を動かす児童の育成と基礎体力の向上		目標実現に向けた取組の実施結果が、2項目以上が達成基準以上	・3項目とも基準以上を達成	今年度の取組を継続する	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題種目の平均値が、年度初めよりも再調査の結果が向上</li> <li>・体育実技研修を、年3回以上行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の調査から課題種目を決め、体育の時間に課題克服のための指導を行う</li> <li>・効果検証として、再調査を12月までに実施</li> <li>・体育実技研修を実施し、指導のポイントを全教員が共有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で課題種目（1・5・6年上体、2年50m走、3年立ち幅跳び、4年反復）を設定、体育学習で課題克服の指導を行い、6学年中5学年が改善</li> <li>・スポーツテスト、陸上記録会計時前に体育実技研修会を実施し、審判や記録の仕方を共通理解した</li> <li>・救命救急研修を実施した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、各学年の課題に応じた運動に取り組む</li> <li>・なわとび、走り方、投げ方、器械運動などの実技研修を実施し、教員の指導力向上に取り組む</li> </ul>	○
オリ・パラ教育「学校2020レガシー」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価項目（児童）「体を動かすことは楽しい」の肯定的回答が80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中休みに全児童が取り組むオリンピックタイム体操、リズムダンス、なわとび、持久走など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「体を動かすことは楽しい」90%、</li> <li>・年間を通じて、体操・リズムダンス・なわとび・持久走を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季は熱中症予防対策をできた</li> <li>・全校児童が20分休みに校庭に出る取組を継続する</li> </ul>	◎
食育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価項目（児童）「ひと口目は野菜から食べる」の肯定的回答が85%以上</li> <li>・学校評価項目（保護者）「ひと口目は野菜から意識して食べる」の肯定的回答が60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学級で「ひと口目は野菜から、よくかんで食べましょう」の号令を実施</li> <li>・栄養士と担任が連携した学級指導の実施</li> <li>・学校だより、給食だよりでベジファーストの必要性を発信する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「ひと口目は野菜から食べる」学校で89%、家で67%</li> <li>・保護者アンケート「お子さんは、ひと口目は野菜から意識して」54%</li> <li>・教員アンケート「ベジファースト、残菜率を減らす工夫」100%</li> <li>・給食だよりや学校だよりでも、食に関わる記事を発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひと口目は野菜から」の取組は、児童には浸透してきた。家庭での食事や保護者への働きかけを継続する</li> <li>・給食だよりや学校だよりでも、食に関わる記事を今後も発信する</li> </ul>	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ア 学力向上アクションプランについて

##### 【課題】

・国語・算数とも平均通過率と平均正答率が75%を下回り、学習の定着状況に課題がある。国語は漢字や読解問題、算数はかけ算やわり算の習熟に課題がある。また、句読点を意識して音読したり、順序立てて考えたりすることが不十分な児童がいる。

##### 【対策】

- ・授業で、また、家庭でも、音読練習の機会を増やす。
- ・単元テストを自分で採点、すぐに復習し、再テストの希望者が増えた。自分を客観的に見つめるメタ認知の力を養う取組を継続する。
- ・何のために、だれになど、相手意識や目的意識をもたせて、書いたり話したりする活動を充実していく。
- ・(2年生以上)多くの児童は1か月に300問以上キュービナ(AIドリル)で復習に取り組むことができた。来年度は、間違えた問題を解き直すことに重点を置いた指導を工夫していく。

#### イ 児童アンケートの結果について・・・12月(7月)

##### 【課題】

・肯定的な回答をしている児童は「授業が分かる」は87%(85%)、「勉強は好き」は57%(62%)であった。学習規律を整え、分かる授業を展開して学習意欲を高めていきたい。また、「自分の思っていることや考えを周りの人に話している」は78%(74%)、「自分の思いや考えを文章で書くことができる」は73%(71%)であり、「他者とのかかわりの中で、自分の考えを広げたり深めたりできる児童」の育成に努める。

##### 【対策】

- ・分かりやすい授業を継続し、互いの考えを認め合う授業づくりに努める。
- ・興味のあることを調べたり発表したりする単元学習(マイプラン学習)を来年も継続し、情報発信力を高める。
- ・考えや意見を出し合い、比べ合いながら、自分の考えを広げたり深めたりして、言語能力の向上に努める。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

○開かれた学校づくり協議会会長をはじめ委員、地域ボランティアの皆様には、登校の見守りやあいさつ運動をしてくださりありがとうございました。

○放課後子ども教室、放課後学習教室で子供たちの見守りをしてくださりありがとうございました。

○保護者の皆様には、オンラインアンケートに回答くださりありがとうございました。90%の方から回答をいただきました。ご意見を参考に、次年度計画を立てて参ります。

### (3) その他(学校教育活動全般について)

○児童アンケート「自分からあいさつをする」は86%(90%)が肯定的な回答。保護者アンケート「自分から笑顔であいさつしている」は70%が肯定的な回答。子供たちは、毎朝、ボランティアの方と気持ちのよいあいさつをしています。

○今年度は、昨年度よりも多くバスを使った校外学習を実施できた学年が複数ありました。「為すことによって学ぶ」を基本とし、来年度も体験を通して確かな知識や知恵を身に付けていけるように、学校行事を充実して参ります。